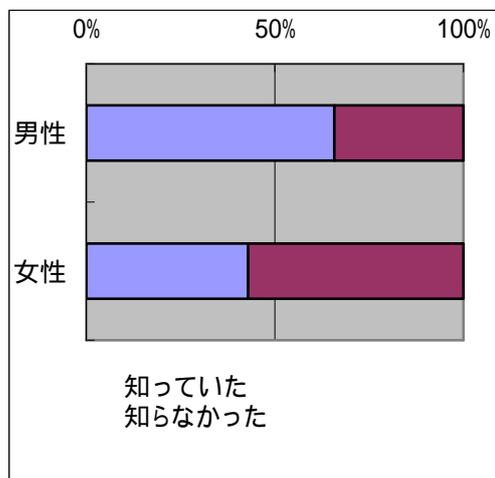
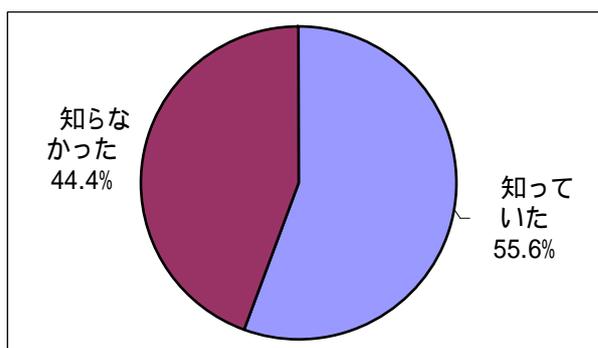


## 6章 環境の取り組みに対する県民の評価

### 3 愛知県が低炭素社会実現に向けて取り組んでいることに関するアンケート

1. 愛知県および名古屋市はそれぞれ毎年「環境白書」を刊行しています。そのことをご存じでしたか？（愛知県で名古屋市以外に在住の方は「愛知県環境白書」について、名古屋市在住の方は「名古屋市環境白書」についてお答えください。..

	男性	女性	合計
知っていた	23	12	35
知らなかった	12	16	28



#### 【分析】

**愛知県は、「愛知県環境白書」および「名古屋市環境白書」について、**  
55.6%の半数以上の方が「知っていた」と答えている。

#### 男女比の内訳をみると

「知っていた」の内訳の男性の方が約70%となり、女性は半数に及ばない。  
男性の方に、関心の高さを見ることが出来る。

#### 年代別の内訳をみると、

「知っていた」は60歳代に一番関心があり、2番目が50歳代となった。次に70歳代となった。会社などの社会経験や年齢が高いほど「知っていた」と見る。

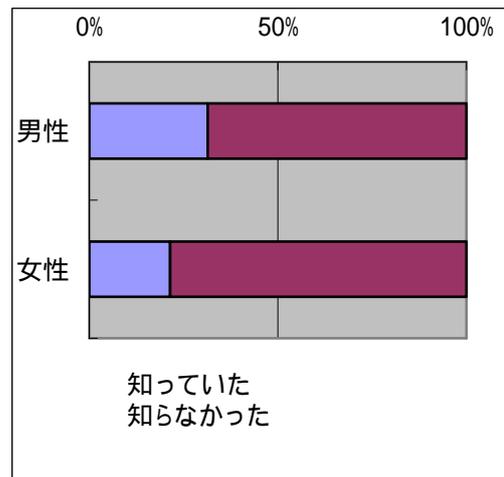
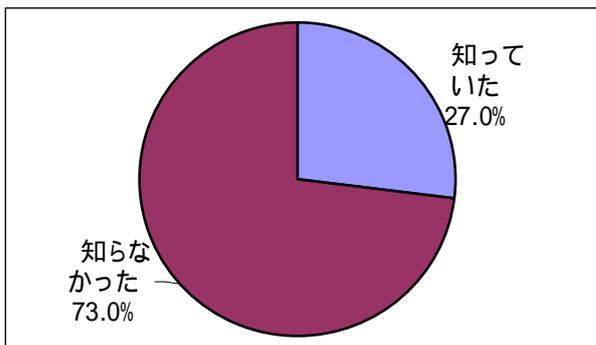
#### 職業別の内訳をみると、

「知っていた」の60歳代では、「環境団体所属」があるものの「無職」の人が多い。  
こちらも当然な結果である。

「知っていた」の50歳代では、「公務員」「環境団体」「会社員」となり当然ではある。

2. 愛知県では「あいち温暖化防止戦略」が2005年に策定されました。また、名古屋市では2010年を目標年とした「市民・事業者の主体別二酸化炭素排出量削減目標量」が策定され「平成20年度環境白書」に掲げられています。このことをご存じでしたか？（愛知県で名古屋市以外に在住の方は「あいち温暖化防止戦略」について、名古屋市在住の方は「市民・事業者の主体別二酸化炭素排出量削減目標量」についてお答えください）

	男性	女性	合計
知っていた	11	6	17
知らなかった	24	22	46



【分析】

「環境白書」の「知っていた」55.6%に比べ、「あいち温暖化防止戦略」および「市民・事業者の主体別二酸化炭素排出量削減目標量」について、環境白書に記載されているものの「知っていた」は、半数の27%で多くの人に知られていない。

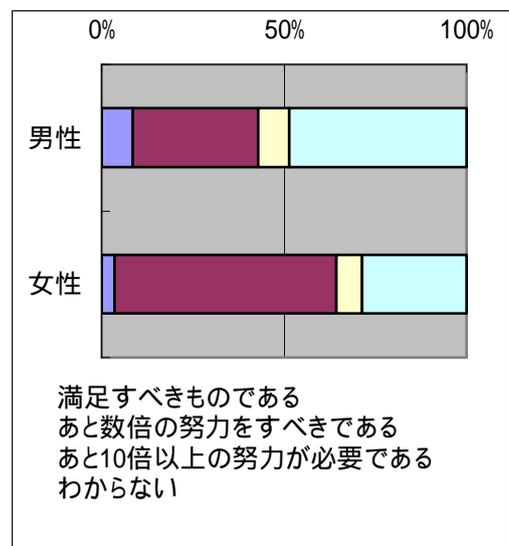
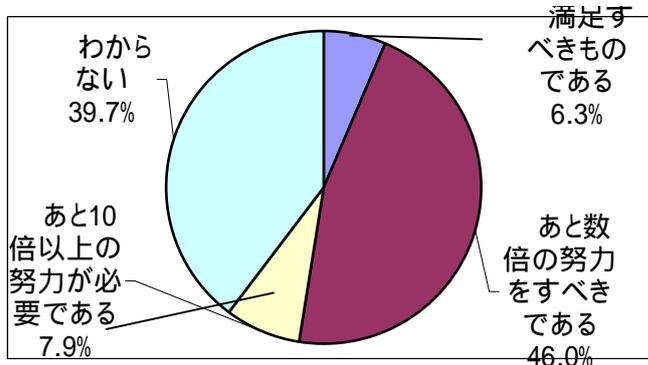
**男女比の内訳をみると**

男性の方が女性より、約10%「知っていた」が上回っているものの、全体が低いものであり、行政にとっても、県民においても、大きな課題となるものである。

3. 旧「愛知県新エネルギービジョン」が策定された1999年度（平成11年度）には新エネルギーが石油換算で約5万キロリットル導入されていました。そして2004年度には約9万キロリットルへと増えました。そこで、2010年度目標値を旧ビジョンの約12万キロリットルに代えて新ビジョンでは約15万キロリットルとしました。他方、愛知県の2000年度における一次エネルギー供給量は653万キロリットルでしたので、新ビジョンの目標値はその約2.3%にあたります。このことから、愛知県における低炭素社会形成、あるいは温暖化防止への努力は満足できるものと言えますか？

【愛知県全体】

	男性	女性	合計
満足すべきものである	3	1	4
あと数倍の努力をすべきである	12	17	29
あと10倍以上の努力が必要である	3	2	5
わからない	17	8	25



【分析】

愛知県全体では、

「あと数倍の努力をすべきである」46%と「わからない」が39.7%となり、全体の80%以上を示すものとなった。

「あと数倍の努力をすべきである」と積極姿勢が多いものだが、その正反対の「わからない」は、数値的に低炭素社会形成および温暖化防止となるかが解らないのか。実感として解り難いのか。どちらにしても本音の部分が現実として捉えるべき。

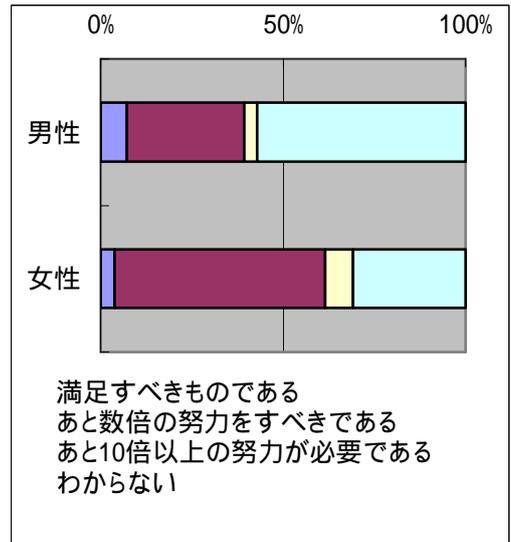
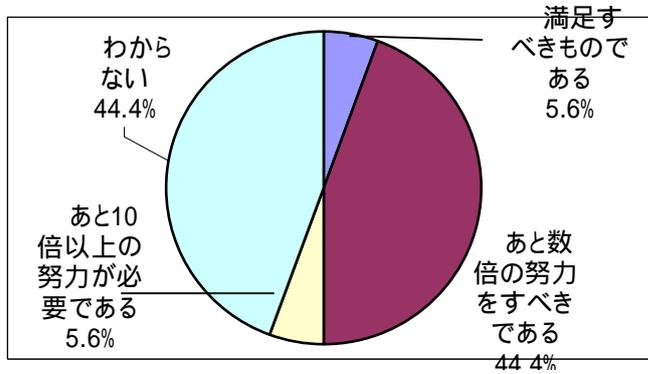
男女比の内訳をみると、

「あと数倍の努力をすべきである」が、女性の方57%と圧倒的に多く、積極的な姿勢が伺える。

「わからない」では、男性が女性より多い半数が答える結果となった。

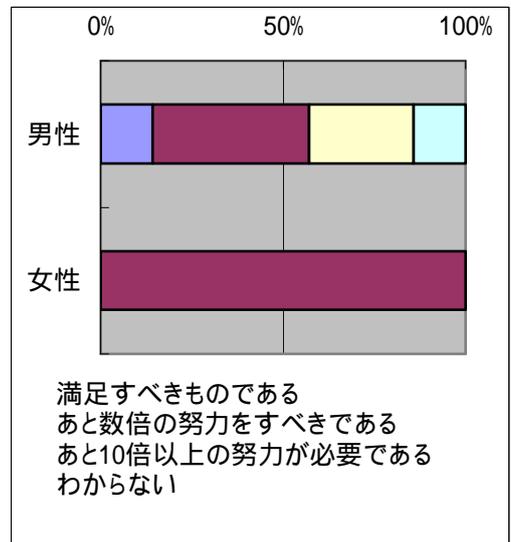
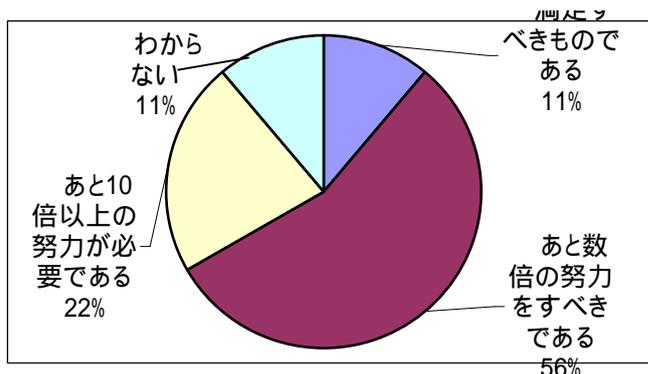
【名古屋市以外に在住の方】

	男性	女性	合計
満足すべきものである	2	1	3
あと数倍の努力をすべきである	9	15	24
あと10倍以上の努力が必要である	1	2	3
わからない	16	8	24



【名古屋市在住の方】

	男性	女性	合計
満足すべきものである	1	0	1
あと数倍の努力をすべきである	3	2	5
あと10倍以上の努力が必要である	2	0	2
わからない	1	0	1



【分析】

名古屋市外の人では

「あと数倍の努力をすべきである」44.4%と圧倒的に多いと、「がわからない」44.4%の真反対が半々となり9割以上となった。  
 また、「満足すべきものである」と「10倍の努力が必要である」が同等の5.6%の半々で約1割となった。

### 男女比の内訳をみると、

女性が「あと数倍の努力をすべきである」と積極的な意見としている。  
「わからない」は圧倒的に男性の方が高いものとなっている。

### 名古屋市内の人の内訳をみると、

「あと数倍の努力をすべきである」56%と圧倒的に多い。  
「あと10倍の努力が必要である」が、22%となっている。  
名古屋市外の人と市内の人によっても認識の違いが出た。  
「満足すべきもの」と「わからない」が同等の11%（男性）となった。  
「わからない」と答えた人が少ないのが特徴的となった。  
また、名古屋市内の人の「あと数倍の努力をすべきである」と積極姿勢が伺えるアンケート結果となった。

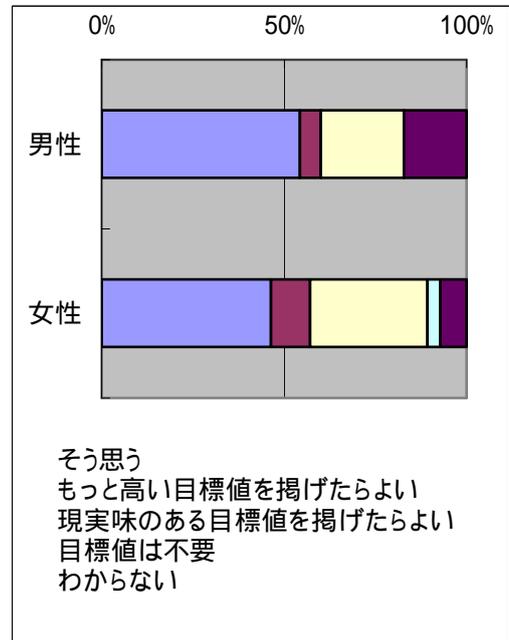
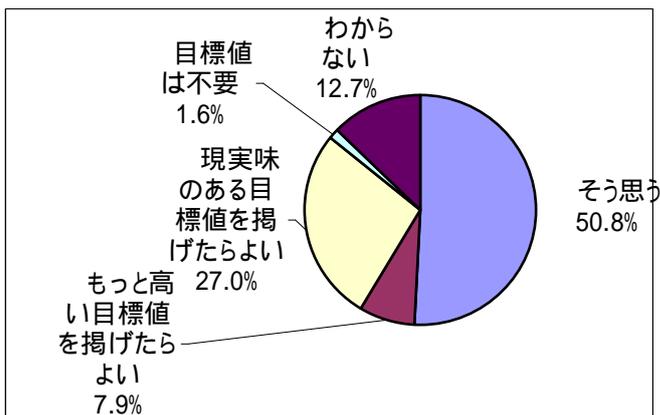
### 男女比の内訳をみると、

女性の100%が「あと数倍の努力をすべきである」と積極的な意見としている。  
一方、男性の「あと10倍の努力が必要である」始め、さまざまな意見が集約された。

4. 民主党政権になって、「1990年を基準にして2020年までに温室効果ガス排出量を25%削減する」という中期目標が掲げられました...

愛知県あるいは名古屋市でもこの中期目標と同程度の目標を掲げたらよいとお考えになりますか?...

	男性	女性	合計
そう思う	19	13	32
もっと高い目標値を掲げたらよい	2	3	5
現実味のある目標値を掲げたらよい	8	9	17
目標値は不要	0	1	1
わからない	6	2	8



【分析】

愛知県全域では、

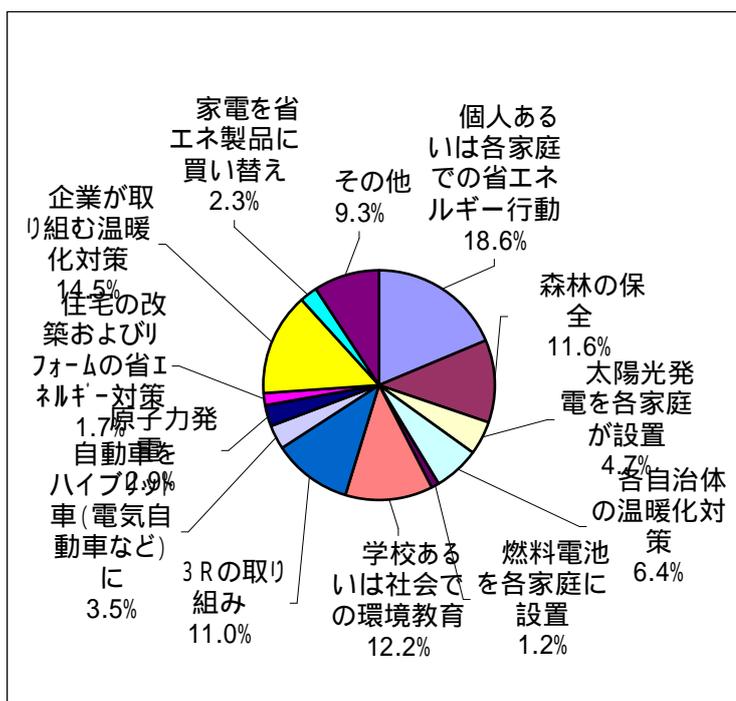
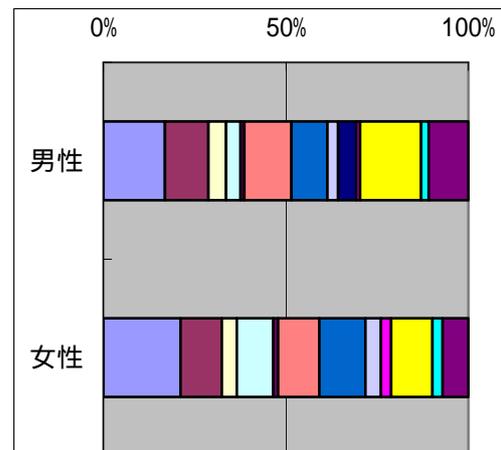
「そう思う」が半数の50%となり、県民は25%と同様の目標を掲げるものとなった。

次の2番目に「現実味のある低い目標値を掲げたら良いと思う」が27%となり、「そう思う」と合わせると、約80%近くと大きな割合となった。

「わからない」が、約13%となり、「もっと高い目標を掲げたら良い」は8%となり、反面「目標値は不要」においては、1%となった。

## 5... 温暖化対策で、特に期待できることは何だと思われますか？

	男性	女性	合計
個人あるいは各家庭での省エネルギー行動	17	15	32
森林の保全	12	8	20
太陽光発電を各家庭が設置	5	3	8
各自治体の温暖化対策	4	7	11
燃料電池を各家庭に設置	1	1	2
学校あるいは社会での環境教育	13	8	21
3Rの取り組み	10	9	19
自動車ハイブリッド車(電気自動車など)に	3	3	6
原子力発電	5	0	5
住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策	1	2	3
企業が取り組む温暖化対策	17	8	25
家電を省エネ製品に買い替え	2	2	4
その他	11	5	16



個人あるいは各家庭での省エネルギー行動  
 森林の保全  
 太陽光発電を各家庭が設置  
 各自治体の温暖化対策  
 燃料電池を各家庭に設置  
 学校あるいは社会での環境教育  
 3Rの取り組み  
 自動車ハイブリッド車に  
 原子力発電  
 住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策  
 企業が取り組む温暖化対策  
 家電を省エネ製品に買い替え  
 その他

### 【分析】

「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」が、一番多く約5分の1を示しており、民生に係る分野で大きく環境負荷を与えていて、家庭での省エネルギーの推進が必要と認識されている。

2番目は「企業が取り組む温暖化対策」を14.5%、3番目に「学校あるいは社会での環境教育」12.2%と続き、4番目には「森林の保全」11.6%となり、社会全体で取組まなければならないという結果・意識の表れたものと言える。

家庭・企業・学校での取組みが必要であると認識しているものとして、全体で約半数近くになっている。

一方、なかなか現実的に「各自治体の温暖化対策」は 6.4%と少なく、自治体単位で行うことは難しいことが伺える、自治体との連携を考えることも必要ではないか。社会全体で行うとなると是非参画を願いたい。

愛知県は、名古屋市を中心とする大都市圏である一方、山間部で森林が多くあることや森林を保有する「森林の保全」も多くの役割を果たす供給源として必要と 11.6%を示している。

「森林の保全」とならび「3R の取組み」も 11%を示している。

また、具体的に家庭に導入する「燃料電池を各家庭に設置」「家電を省エネ製品に買い替え」については、温暖化対策に結びつく関心が低い、現実的な意見と受け止める。

一方、具体的に家庭に導入する「太陽光発電を各家庭に設置」や「自動車をハイブリット車」においても、上記よりは関心が高い。

国や自治体の「太陽光発電導入」の補助金を支援する「しくみ」や「メリット」が大きく反映しているのか。

男女比の「ベスト 3 位」までと「ワースト 3 位」までをみると、  
ベスト 1 位～ 3 位

- (男性) 1 位～ 2 位… 「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
      … 「企業が取り組む温暖化対策」 (同数)
- 3 位…………… 「学校あるいは社会での環境教育」
- (女性) 1 位…………… 「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
- 2 位…………… 「3R の取組み」
- 3 位…………… 「森林の保全」  
      …………… 「学校あるいは社会での環境教育」  
      …………… 「企業が取り組む温暖化対策」 (同数)

ここまで、「温暖化対策で期待できる質問項目」の答えについて、ほぼ「三重県」「岐阜県」と同じ結果となった。

ワースト 1 位～ 3 位

- (男性) 1 位…………… 「燃料電池を各家庭に設置」 (同数)  
      …………… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」
- 2 位…………… 「家電を省エネ製品に買い替え」
- 3 位…………… 「自動車をハイブリット車」
- (女性) 1 位…………… 「原子力発電」
- 2 位…………… 「燃料電池を各家庭に設置」
- 3 位…………… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」  
      …………… 「家電の省エネ製品に買い替え」 (同数)

**ベスト項目の内訳をみると、**

「森林保全」を女性が掲げ、男性は「企業が取り組む温暖化対策」との違いがあるものの他については同じとなった。

**ワースト項目の内訳をみると、**

順位は違うものの、男性・女性共に同じ項目となった。

その他 記入詳細

- 食料自給率の向上 .....(40 歳代男性)

- 世界や日本に参考にすべき取り組みや技術が多くあると思うので、それらを積極的に取り入れ温暖化強化ガスを削減できるといいと思う。

その際、取り組みなどがうまく機能するための仕組みづくり、リーダーシップを政府に強く期待したい。

その観点で、企業、国の取り組みを広く知らせ、色々な立場の人の行動に共通のスタンスが持てるような啓発活動が望まれる。

環境教育は常々、大人こそ受け生活などを変えていくべきだと感じており、そのような大人の姿の中で子供の環境意識の基礎もはぐくまれると思う。

温暖化問題と化石燃料の枯渇ということが同時期に問題になっている感があるが、市民のエネルギー問題の意識は希薄であると感じる。

両面から考えて、一人ひとりの問題という認識が必要なのではないか。

今は送球にこれからのエネルギー問題を考えていかななくてはならない期間であるが、市民感覚でも次のエネルギーを考え行政と認識を共有することが大切だと思われる。 .....(40 歳代女性)

- 消費の縮小は努力しなくてはならないと思うが、大幅な縮小は難しいと思う。日本人は「知恵」の部分で工夫ができると考えます。 .....(40 歳代女性)

- 1. 価値観の大変革とそれを実現する社会システム  
2. 市民が政策づくりとその実現に参加する仕組み  
3. 新自由主義、グローバル経済に変わる新たな理念.....(50 歳代男性)

- とにかくみんなが贅沢をせず、エネルギーを使わない生活に切り替えること。 .....(50 歳代男性)

- 各家庭に小型電力計を、1000 円程度で販売して、個々の家電製品の電力を計って無駄な使用電力を確認して、省エネに努めてもらう。 .....(60 歳代男性)

- 環境問題は生活様式の変化、それも「我慢」ではなく、「前向きな明るい」相当「知恵」が必要な活動により改善される。そしてそれが「実利」に結びつけば最高。

新聞のページ数、TV の放送時間、行政の膨大なチラシやパンフ量など見ると推進者？とみられる側の真の意識は意外と低い？

「上から目線」の証拠。 .....(60 歳代男性)

- 有効な考えではありませんが、小生、環境問題は個人の完成にゆだねる拠が大で在ると思っていますので、現在の周囲を取り巻くすべての条件を既に頭に取り入れ固くなってしまっている大人にどれだけお話をしても、実践化させるのは非常に難しいと思っています。

ソニーの井深大さんが「幼稚園では遅すぎる、人生は三歳までにつくられる！」

と言っています。小生は、教育者ではありませんから、そこら辺は解りませんが、とにかく少しでも感性が豊かに育つ幼児・児童・小学生での取り組みが重要であると考えます。小生の教育の原点は、禅の言葉にある「嗚啄同機」であります。雛がかえる時、雛は卵の内側から殻をつついて音をたてます。親鳥は、その音のするところの卵の殻を外側からくちばしでこつこつとついで、雛が出てきやすいように手助けをします。これは親鳥と雛の絶妙なタイミングが必要となる行為です。小生は親鳥としての手助けがほんの少しでも出来れば良いとの思いで活動しています。.....(60歳代男性)

- 温暖化対策はお金がかかる、家庭では無理な面もあります。  
それに対する見返りが必要でしょう。
  - 温暖化を促進する製品を法律で規制する。
  - 温暖化防止に取り組んでいる企業などを、数値化で明確にして、国民に公表する。
  - 愛知県は、製造業が多いから、現実にあった目標設定と、監督フォローが必要。  
.....(60歳代男性)

- プラ製容器包装などリサイクル資源化の努力を精査してCO削減として評価すべき行政が脱温暖化対策に向けた熱意・姿勢・意欲を感じ取れない組織、対策室程度では？

もう一つは温暖化対策行政予算をいくら使うのか開示が必要.....(60歳代男性)

- フードマイレージの観点から、農業・漁業について、地産地消・旬のものを食卓にだすと云った、日本古来のスタイルに戻り、魚介類も近界の旬のもの、獲れたものは大・小限らず、食卓に出す。  
イタリア北部のレストランでは、魚の唐揚げがメニューにあり、地元の川でとれた小魚も出てくる。飛行機・船に積んで遠い国から、大量の燃料を使用して運ばなくても、良いと思います。.....(60歳代女性)

- 個人に負担が重くならないようにしてほしい。.....(60歳代女性)

- 小学校では、環境問題に焦点をあてて、ディベートをし、学校の学習発表会で地域の人たちに学んだことの情報を発信しています。

大人の啓発は、難しい課題ではありますが、子供は自分のこととして、団体で学校で取り組んでいます。中学になると環境家計簿で二酸化炭素の排出量を調べることもでき、車がいかに二酸化炭素を多く排出にしているかを理解できる年齢だと思います。高校生になれば、公共交通を使用の通学も体験する。今、地域の足となる、電車やバスの廃線がよく話題に上がります。車に乗って生活していると、公共交通を使ってでないと、移動のできない世代や人たちのことは、忘れてしまっています。車に乗る前のエコな人が排出増にシフトする。

卒業から3年後には車の運転をするこの世代へのアプローチは有効と思う。(女性)

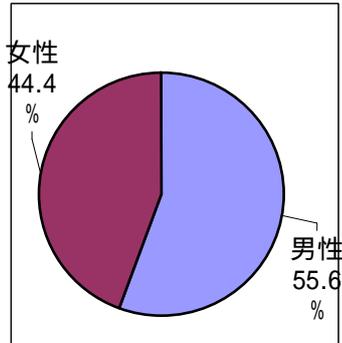
6.最後にあなたご自身について、ご回答ください。

あなたのお住まいは

名古屋市、豊橋市、刈谷市、大府市、稲沢市、愛西市、一宮市、津島市、  
豊田市、瀬戸市、尾張旭市、犬山市、岡崎市

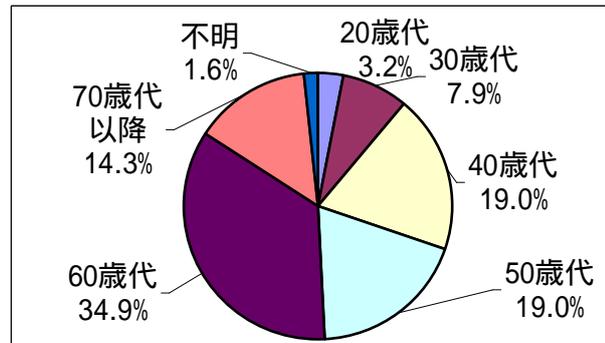
あなたの性別は？

男性	35
女性	28
合計	63



あなたの年代は？

20歳代	2
30歳代	5
40歳代	12
50歳代	12
60歳代	22
70歳代以降	9
不明	1
合計	63



あなたのご職業は？

無職	26
公務員	3
環境団体	6
会社員	10
その他	12
不明	6
合計	63

